

校長だより

平成25年9月2日(月)

第8号

浦添高等学校校長 高安直

◇◇◇ 2学期始業式 ◇◇◇

今年の夏休みも有意義な日々を過ごすことができたでしょうか。さて、今日から2学期です。9月7日(土)、8日(日)には”きら星祭”があります。多くの方のご参加を期待しています。2学期も学習活動、部活動、各行事等、みんなで協力して充実した学校生活を送りましょう。

★★★ 2学期の目標 ★★★

- ① 学校からの公文・たよりは必ず家庭に届けるようにしましょう。
- ② 高校生としてのマナーを守りましょう。(時間の管理・姿勢を正す・居眠りをしない等)
- ③ 自分の課題・生き方を明確にし、将来を見据えた進路を決定しよう。

以下、始業式の校長あいさつの概要です。(4月放送 TV「世界最強の勇者たち」より)

始業式に当たり、不可能を可能にした「カイル・メイナード」さんの話を紹介したいと思います。

カイルは、生まれつき両手両足がない「先天性四肢欠損」というハンディを持っていました。

2足歩行ができない、すなわち普通に歩くことができないカイルでしたが、両親の勧めで、小学生時代からフットボールやレスリングを始めています。

チームメートや対戦相手は健常者です。高校1、2年の時のレスリングの試合ではなかなか勝利を手にすることはできませんでした。このとき彼は、「毎回試合のたびに怖い思いで臨んできたけど、いつかは勝ってやろうって思って続けてきたんだ。そして、初めて勝ったときに気づいたことがある。勝敗を決するのは、自分が自信を持って臨むか否かであって、相手の力量は関係ない」と語っています。

高校3年ではその言葉を証明するように連勝を収め、ついには全米高校生リーグで12位の成績を残すまでに成長することができました。さらに、ウェイトリフティングでも109キロの重さで23回のベンチプレスに成功するなど、ハンディキャップをものともしない彼のたゆまぬ挑戦は、その不屈の精神の現れでした。

カイルのモットー「ネバーギブアップ・絶対に諦めるな」という精神が彼のこれまでの行動の原動力であり、彼の生き方そのものでした。

そして2012年1月、25歳の時、彼は新たな挑戦として、アフリカ大陸最高峰の山、標高5895mのキリマンジャロ登頂に挑んだのです。キリマンジャロに挑戦することにより、世の多くの人々に「諦めない・不可能なことはない」というメッセージを発信するためです。

いよいよ登山開始です。その直後は順調だったものの、標高が上がるにつれ、アップダウンの連続となり、カイルの手足には大きなダメージが蓄積していきました。

なぜなら、手足が欠損しているカイルが山を登るには、二足歩行ではなく、常に這いつくばっての登山となるため、腕や足の欠損部分で険しい岩肌を捉え、さらに体全体を持ち上げなければならない、という腕立て伏せのような動作の繰り返しとなるからです。

さすがに体力も低下し、怪我也深刻化していきました。もはや長丁場は無理だと判断し、最短だが、しかし最難関のルートを採用することにしました。これは、岩と氷河の壁を、一気に登りきらなけ

ればならない難しいルートで、これまでに登山家3名が命を落としているルートです。カイルはそのルートを13時間もかけて登り続けました。

9日目、カイルはついに山頂への到着を果たしました。

彼が命がけの登山から学んだことは、

「これから先がどうなるのかを心配をするよりも、自分がこれまでに目の前のことにどれだけ打ち込んできたのかに気持ちを向けるべきだ。これは、人生にしたって同じことだ」と悟ったことです。

彼は自伝の中で、「何度も何度も、普通の体に生まれたかったと思ったものだよ。普通であればなあと思い、葛藤してきたこともあった。でも、僕にはこの体に生まれた使命があるんだ、人々にネバーギブアップと伝える使命が」と語っています。

カイルは、命がけの挑戦で、

「Never give up・絶対に諦めない」ことを証明してくれました。

浦添高校の生徒の皆さんにはこの「諦めない精神」を2学期初めのメッセージとして送りたいと思います。皆さんは、「自分の進むべき進路をみつけなければいけません。そしてその困難に打ち勝つ自信をつけ、立ち止まることなく歩み続けて下さい。」

自分の進むべき進路を見つけ、その実現に向けて2学期も頑張りましょう。

~~~~~ 「俳句甲子園」で浦添高校が3位となる ~~~~~

高校生が俳句の腕前と鑑賞力を競う第16回「俳句甲子園」が23日から26日に松山市で開催されました。県代表として参加した浦添高校は、敗者復活戦の際の句「養虫や 爆音といふ 子守唄」が審査員に高く評価され、準決勝まで勝ち上がり全国3位の成績を残すことができました。沖縄県勢としては第13回大会（2010年）の首里高校の準優勝以来の快挙です。

また、優れた討議や感想を残した生徒に贈られる審査員特別賞を西原裕希さんが受賞しました。さらに本大会はこれまでに東京都の開成高校が7回の優勝、俳句王国の愛媛県勢が通算6回の優秀を誇ります。進学校としてもレベルの高い全国の学校を相手に、臆することなく素晴らしい対戦をしてくれた部員の皆さんご苦労様でした。参加した生徒は以下の通りです。

西原 裕希（3年2組） 浜崎 伶奈（2年4組） 安仁屋利緒奈（2年5組）
金城 涼太（2年8組） 吉田 拓馬（2年9組）

~~~~~ 空手道部は九州大会で活躍 ~~~~~

去る7月に九州の各大会に参加した空手道部の成績です。上位入賞おめでとうございます！

第62回全九州高等学校空手道競技大会 男子個人形 3位 照屋 雅高（2年1組）

第33回九州ブロック大会（東京国体予選） 女子個人形 2位 與那覇綾子（2年3組）

第39回全九州空手道選手権大会 女子個人組手 2位 新垣 夏紀（2年6組）
女子個人形 3位 與那覇綾子（2年3組）

第40回全国高校総体 空手道選手権大会 女子個人形 ベスト16 與那覇綾子（2年3組）

有意義な高校生活を創造しよう！